

日刊

オール大阪
さよなら「維新」vol.8

ごいっしょに 新しい大阪の未来を

毎日、新しいニュースをお届けしています

これまで「維新」による“政策よりパフォーマンス優先”の府政・大阪市政がすすめられてきました。政治とはコツコツと積み上げていくものです。元女性府議と元市議団幹事は「維新政治」と真っ向から対決し、新しい大阪づくりに全力をあげています。



私たちが一緒に
がんばります

元市議団幹事長

元女性府議

大阪をマジメに、そして まともな大阪府を取り戻す

この8年間は大阪の歴史の中で最も不幸な期間だったと言えます。

まっとうな府政・市政を「オール大阪」の力で取り戻しましょう。

「都構想」ノー

しくみではなく、暮らしをよくするため
マジメに議論して前にすすめます

知事は「これがラストチャンス、住民投票に否決されたら民間人に戻る」と言っていました。その半年後に「都構想」に再挑戦——有権者の判断をバカにするもので許せません。

教育をまもる

しっかりと子どもの心に寄り添い
血の通った教育をすすめます

学区の撤廃や高校入試がコロコロ変わり、教育現場が疲弊し、混乱をまねいています。小中学校での暴力件数や不登校児童数も急激に増えています。すべての子どもの学力を伸ばす教育にしましょう。

景気をよくする

企業の99%を占める中小企業支援し
経済を活性化させます

ごく一握りの目立つところばかり支援し、中小企業に目が行き届かず、雇用も経済も疲弊させました。中小企業支援で経済活性化させる府政に変えましょう。

ムダをなくす

ムダとキケンな咲洲庁舎から撤退し
大手前に集約化します

「二重行政解消」と言いながら、大手前と咲洲の10キロ以上離れた二つの庁舎をもち、しかも防災拠点になりません。撤退し、ムダづかいをやめます。

広がる共同の声



トップダウンではなく
住みやすさ優先の
都市を

老舗のアイスクリーム屋
ゼー六 本町店主
廣瀬 光徳さん

住民投票で「都構想」が反対であった以上、また民意を問うのはそれこそ住民投票の税金のムダです。このことで住民感情が二分し対立するのは嫌です。トップダウンも権力的になり、役所や教育機関の現場の人が、住民と向き合うことに委縮している感じがしています。資産価値を高めることより、介護・子育ての地域福祉を充実させた、住みやすさを優先した先進的都市機能を構想したいものです。



明るい民主府政

発行/2015年11月16日 第822号 〒530-0047 大阪市北区西天満3-1-27 レバンガ西天満
明るい民主大阪府政をつくる会 TEL.06-6365-5839 FAX.06-6365-5842

Mail akarui@mba.sphere.ne.jp
HP <http://osaka-akarui.com/>

明るい会

検索

「明るい会」は、大阪商工団体連合会、大阪府保険医協会、新日本婦人の会、全大阪労働組合総連合、日本共産党など56の団体・政党で構成しています。

「明るい民主大阪府政をつくる会」は次の見解を出しました。



まだ「大阪都」って？

堺市長選挙や大阪市の「住民投票」で否決されたのに、また「大阪都」？
「そんなん『二度づけ』禁止や！ルール守れ」と怒りの声がでています。
同時に、「やっぱり『大阪都』やないと変わらへんで」などの声も。
ホンマにそうか？ みてみましょう。



ペテンと
ごり押し、
「二度づけ」で

あきれ手法



大阪が発展する？

いいえ、

成長の

エンジンが壊され、

さらに落ち込みます

「大阪都」は、「大阪市」や「堺市」をつぶすものです。126年の歴史をもち、「商都大阪」を担ってきた大阪市をつぶして、なぜ大阪が発展するでしょう？
おまけに「カジノ」「道頓堀プール」などに熱心で、中小企業支援はないがしろ。「維新府政」のもとで、大阪経済はどこより落ち込んでいます。
「しくみ」でなく、くらしと中小企業をあたためる府政へ、「中身」の転換を。

くらしが充実？

いいえ、

「府」を変質させ、

くらしと福祉の

ささえがなくなります

「維新」は、「福祉や医療は市町村の仕事」と、「府」の仕事をどんどん削減してきました。救命救急センターへの補助金はカット、学校警備員の市町村補助は削減。子どもの医療費助成も、市町村の努力で「中学校卒業まで」などが広がっているのに、これをささえる府の水準は全国ワーストの「小学校入学前まで」。
「大阪都」ではくらしや福祉は市町村まかせ。「府」の仕事は投げ捨てられます。

ムダがなくなる？

いいえ、

新たに

ばく大なムダが

生まれます

「三重行政」がなくなるからええ？
でも、橋下さんらがいうのは大昔の話だけ。いまだここにムダがあるかはいえず、知事は、体育館は両方あっていいと言いだしています。
「都」で削られるムダはほとんどなく、逆に「区役所庁舎」建設など、680億円以上のばく大な負担がのしかかります。しかも、「都」と「区」と「一部事務組合」の「三重行政」が始まります。

「大阪都」にたいしては、中身とともに、そのやり方のひどさへの批判が広がります。

4年前の選挙では「騙されないで下さい。大阪市はバラバラにしません」とビラをまいて、市長就任すると「大阪市つぶし」に突っ走る。

「大阪都」の設計図づくりが行き詰まると「出直し市長選挙」をやつて6億円のむだづかい。それで「野党委員」をすべて「与党委員」にさしかえ強行。

「住民投票」では5億円もの「政党交付金」を湯水のようにばらまいて「金権選挙」。その支払いをめぐつて、「維新の党」の分裂騒ぎが続いています。

「住民投票」では「ラストチャンス」と叫び、敗北したら「政界引退」（橋下市長）、「民間人に戻る」（知事）とまでいった方が、今回のダブルのたたかいで、またぞろ「大阪都をやらせてほしい」？！

あまりにも大阪市民も、府民もバカにしたやりかたではないでしょうか。